



ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



(大雪山雲の平)

目次

●これからの生涯学習を展望して……………	2	●平成24年度「ほっかいどう学かでの講座」 盛況裡に前半終了！……………	5
●わがまちの生涯学習……………	3	●随想19……………	6
●私の生涯学習……………	4		

これからの生涯学習を展望して

～人生100年時代の消費型生涯学習のススメ～

日本生涯教育学会北海道支部支部長 佐久間 章
(札幌国際大学准教授)

本年3月、文部科学省の「超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会」が、長寿社会における生涯学習の在り方について報告書を取りまとめました。サブタイトルには、「～人生100年いくつになっても学ぶ幸せ『幸齢社会』～」とあります。人生100年時代を想定した人生設計の必要性や、高齢者が、社会から支えられる存在ではなく、地域が抱える課題を解決する「地域社会の主演」として活躍できる環境整備を提起しています。このように近年の生涯学習で、とかく耳にするのが「学習成果の活用」「地域課題の解決」というフレーズです。

平成18年に改正された教育基本法の中では、新しく規定された「生涯学習の理念（第3条）」の中で、「成果を生かすこと」の重要性が示されています。また、北海道生涯学習協会においても、「学習成果実践事業」で、各圏域の道民カレッジボランティアの皆さんが講座を企画・運営するなど、これまでの学びの「受け手」から学びの「担い手」としての活躍が報告されており、「学んだ成果を生かす」活動の輪は着実に広がりを見せています。

しかし、旺盛な学習意欲で北海道の生涯学習をけん引している高齢者の方々が、今日のように「学習成果の活用」があまりにも強調されると、学習活動への第一歩を躊躇してしまうのではないかと聊か心配しています。活用のない学習は、完全否定されているような空気さえ漂っています。

かつてOECDで、「各国における生涯学習(政策)の比較研究」が取り上げられた際に、日本の生涯学習は、他の先進諸国に比して、極めてユニークであると言われました。当時の日本の生涯学習は、心の豊かさや生きがいを重視し、豊富な学習機会の提供を国が公的資金で推進していることが、先進諸国には理解し難いことであつたのです。なぜなら、先進諸国の生涯学習は、一般に「労働者の継続教育訓練」であり、厳しく辛い学習は、豊かな国家を指向した将来への先行投資なのです。将来に「成果」を求める先進諸国の「投資型」生涯学習に対して、日本の生涯学習は、学習そのものを楽しむ「消費型」生涯学習と見られてきました。しかし、高齢化の進展にともない理解し難いと言われてきた日本モデルも、海外から大きな関心が寄せられることとなります。特に、福祉先進国といわれる北欧諸国は、高齢者福祉のシステムは進んでいるが、いずれも高齢者に物質的な豊かさを与えるのみで、精神的な豊かさの実現という面において欠けていたという反省があります。そこで、心の豊かさや生きがいを重視した日本の生涯学習が、高齢者を元気にし、医療費削減にも効果が期待できるのではないかと注目を集めるようになったのです。学習成果の活用の重要性は言うまでもありませんが、一方では「消費」と割り切って、健康のための生涯学習もこれからは大いに奨励すべきではないかと思えます。

北海道の高齢化率は、25.2%、平成47年には、37.4%になると推定されています。また、1人当たりの老人医療費は、全国平均を20%以上上回っており、福岡県に次いで全国2位です。人生100年の時代を健康で豊かに生きるために、学習成果の活用など考えずに、気楽に学習を楽しむ「消費型生涯学習」からはじめてみてはいかがでしょうか。

本年30周年を迎える日本生涯教育学会北海道支部は、12月に北海道生涯学習研究集会を開催し、さらに年度末には30周年記念誌の刊行を予定しております。これからも本道の生涯学習推進の一助となるよう取り組みを進めてまいりたいと思えます。

わがまちの生涯学習

音更町教育委員会

音更町は、「いつでも、どこでも、だれもが自由に学習することができる」学習環境と学習体制の充実や地域活動を通して学びあいのネットワークを推進し、「行政と住民とのパートナーシップ」を築き、協働によるまちづくりを進めていくため、各種生涯学習事業を展開しています。

その数ある事業のうち、次の事業をご紹介します。

【高齢者大学（すずらん大学）・高齢者大学院（すずらん大学院）・高齢者学級】

高齢者大学は昭和63年に2年制で開設し、平成2年から4年制となっています。入学資格は、60歳以上の町民であることだけで、町内外から様々な分野の方々に来ていただき、講義を聴くという学習をしています。

その内容は、社会福祉、一般教養、食事と健康、介護保険制度、郷土の産業や歴史など多岐にわたっており、町内外の施設見学なども行っています。

また、3・4年生になると、郷土、社会、自然、ボランティアなど、グループに分かれて実践研究をしており、その研究を通して「自分の町を知ることが、町を良くする事だと気がついた」「ボランティアを通してこれから町に還元したい」などの感想が寄せられています。

高齢者大学院は、高齢者大学を卒業した人たちが対象で、平成10年に2年制で開設し、原則月1回の活動を行っています。

午前中は主に講義・講話・話し合いなど、午後は実技・実習・演習・見学などを行っています。学習内容としては、指導者養成講座では、社会学（生活・自然環境・郷土史等）、社会福祉学（高齢社会・年金・在宅福祉等）、熟年学（健康管理・老人痴呆の予防等）、介護技術（介護の心得・家族介護等）、社会参加活動（地域援助活動・社会奉仕等）の5科目、創造的活動講座では、文学科（読書・創作）、演劇科（演劇）、音楽科（音楽鑑賞）、美術科（絵画・彫刻等の鑑賞）、レク・軽スポーツ（カラオケダンス・ゲームなど）の5科目で、年間で36単位を学んでいます。そして、2年間通算で6割以上取得した人に修了証が授与されます。

高齢者学級は、卒業年限を定めず終身制で、町内に6つの学級を開設し、合わせて540名程の学級生が生涯学習を実践しています。毎月1回の学級開設の日には、午前中は社会・生活、健康保持・教養・趣味などを学び、午後は同好者によるクラブ活動を行っています。

また、毎年11月には町内の高齢者学級が一堂に会し、それまでに取り組んできたことを合同で発表し、お互いの成果を確かめ合う合同文化祭を開催しています。

芸能発表部門ではカラオケ、合唱、ダンス、舞踊など、展示発表部門では書道、手芸、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、園芸、陶芸などが展示され、学級生の特技・趣味の多様さやレベルの高さを見ることができます。

【OOJCオープンカレッジ】

OOJCオープンカレッジは、音更町と帯広大谷短期大学が学習提携し、共同で生涯学習講座プログラムの企画・運営を連携、協力して取組んでいる事業で、平成13年度から地域住民の学習ニーズに対応した学習機会を提供しています。

これまでに一般講座、国際理解講座、特別講座、小学生講座など延べ受講者数は12,000人を超えるまでになっております。

また、このほかにも特別コンサートや特別映画上映会、子ども映画会、特別講演会など、多くの方に参加をいただいております。

今年度もJICA帯広との連携講座をはじめ、中国語やフランス語講座のほか特集講座を6講座、パソコン講



座など教養・文化・技能講座を7講座、小特集が2講座、子ども達に人気の小学生講座を4講座企画しており、既に多くの受講生の皆様に喜んでいただいております。

平成23年度からスタートした第5期音更町総合計画において、「生涯学習」は基本構想における施策の大綱の中で「心豊かな人を育むまち」として位置づけされ、いわゆる「人づくり」に重点を置いています。

同様に第3次生涯学習推進基本構想（平成23年度～32年度）においても、基本的考え方として「人づくり」、「地域づくり」、「生涯学習の推進体制づくり」で構成しており、今後も生涯学習社会の実現に向け、取り組んでいきます。

(音更町教育委員会教育長 荒 町 利 明)

私の生涯学習

社会教育としての生涯学習

YMCA 総主事 宮 崎 善 昭

私の組織は、YMCA (Young Men's Christian Association) という青少年社会教育団体です。社会教育とは社会適応能力、発信能力、コミュニケーション能力等を身に付け、人間関係を円滑にして人間相互の成長を支援するための教育です。ご承知の通り近年日本では、家庭教育力、地域教育力の低下現象が顕著に見られ、低下した教育力を学校教育に依存するようになりました。このため学校教育が飽和状態になり破綻しかけているのが現状です。元より学校の教師は教育専門大学や教職課程で社会教育の方法論やそれに基づく実践を専門的に訓練されていないため、学校でのクラス運営の実務による経験則のみで社会教育に当たろうと努力していますが、指導力不足は否めません。



チミケップ国際キャンプ
グループ・ワーク手法による青少年の社会教育訓練
の「場」です。

私たちは、社会教育も生涯にわたって学習していくものであるという認識をしています。どこかで社会教育の講義や実習を何時間か受講し、資格を取ったからと言って社会教育の卒業ということにはなりません。教育原理は同じであっても、社会の変化や多様性に対して、方法論やアプローチの仕方はどんどん変化していきますし、変化に伴って指導の方法論も変化していきますから、旧態依然とした方法論では、その時代の青少年に有効な社会教育をすることはできないと思います。

YMCAでは、社会教育の基本は価値観と考え、社会生活に必要な価値をキャラクター・ディベロプメントとして、①思いやり ②尊敬心 ③誠実さ ④責任感の四つを地域に開放している全てのYMCAプログラムに参加する青少年に伝えようとしています。この四つの価値観は、必ず「他者に対して」を前提としていますので、これを身に着けることによって、他者（外国人も含んで）との人間関係を円滑にすることが可能になるであろうと考えているわけです。

しかし、この価値観は、あくまでも個人における価値観ですから、イメージも体現の仕方も全て異なりますし、これから先も、人生経験や生活環境によって内容的、質的に変化してくるものです。グローバル時代を生きる青少年に基本的な社会的価値観を伝え、本人が試行錯誤しながらも本来異質である他者をどの様に受容し、共に成長しながら生きて行くことができるよう考えています。将来に辛いこと、嫌なこともあるかもしれないが、それを避けるのではなく、それでも尚、他者と共に喜びや悲しみを分かち合って生きて行くことの意味、全ての隣人と支え合って共に生きることの意味を伝えようとしています。

そして、私たちは、システムに拠らず、一人一人の人間に丁寧に相對していく社会教育の方法論は、効率や速さという絶対的価値観ではなく、一人ひとりを如何に大切にしていくかという相対的価値観が求められていると考えています。

平成24年度「ほっかいどう学かでの講座」盛況裡に前半終了!

北海道のくらしや健康など、道民の学習ニーズに応える「ほっかいどう学かでの講座」も9月21日開催の第7回をもって前半が終了しました。この間、受講生からは、「問題点がわかったのでこれからすべきことを考えていくことができ、勉強する目安ができた」、「なかなか聞くことの少ない内容でしかもわかりやすい解説で興味が深くなった」などといったご意見を頂戴しました。



第1回かでの講座の受付風景



第3回かでの講座の講義風景

今年度の開催も残り5回となりました。まだ受講されていない方は、是非一度かでの講座に足を運んでみてはいかがでしょうか。

【今後の予定】

回	月日(曜)	演 題	講 師
8	10月16日(火)	北海道の秋に響くチェロの音色	チェリスト 土田 英順 氏
9	11月 7日(水)	ハーブを利用して冬を元気に	ハーブガーデンデザイン 主宰 井上 幸子 氏
10	12月11日(火)	古文書に見る男の生きざま	ノンフィクション作家 合田 一道 氏
11	1月18日(金)	北海道の巨樹・名木	ほっかいどう学(自然環境)の会 会長 遠山 武 氏
12	2月 6日(火)	アイヌのチャシについて(仮称)	東京大学名誉教授 宇田川 洋 氏

■生きがいづくり生涯学習促進事業

「生きることは学ぶこと」の視点から、これまでも道民の方々に広く学習の機会を提供してきている本事業を今年度は8会場で講演やシンポジウムなどを開催します。

この事業は、道民カレッジの連携講座に指定されています。

開催日	市町村名	主 な 内 容
9月19日	興 部 町	講演・実技「ピンピンコロリ運動を興部町から発信しよう」
10月11日	積 丹 町	講演・実技「健康づくりと生きがいづくり」
10月13日	礼 文 町	講演・実習「地元食材を活用した地域づくり」
10月28日	洞 爺 湖 町	講演・バズセッション「防災について」
11月 9日	標 津 町	講演・バズセッション「年齢層にふさわしい健康管理」
11月11日	南 幌 町	講演・グループワーク「支え合いと元気ある社会を目指して」
12月 2日	知 内 町	講演・ワークショップ「こころと身体をつくる食べもの」
12月26日	更 別 村	講演・意見交流「笑い健康のステキな関係」

■アンケート調査のご協力ありがとうございました

協会では、広報紙発行业の充実を図るため、6月発行の会報送付の際に、個人賛助会員を対象にしてアンケート調査を実施いたしました。

回収率は12.7%でしたが、貴重な意見につきましては、今後の運営の参考とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

【多数意見の結果】

設 問	主 な 回 答
1 広報紙の発行回数	現状のままでよい(年4回)
2 広報紙のページ数	現状のままでよい(6頁)
3 広報紙の内容	・各ジャンル別に内容充実を ・直接取材による掲載を
4 広報掲載の希望	・図書や研究資料の紹介 ・ユニークな団体等や企業人の紹介 ・目的(テーマ)を絞った企画を
5 その他	・生涯学習インストラクター等の情報 ・他施設等のイベント情報 ・国や道の生涯学習に関する情報や解説を

随想19

ひとつの体験

東京に出張した際のひとつの体験。いつも通る小道に小さなタバコ屋さんがある。ビル街の中にぽつんと建っている一軒家。気をつけないと通り過ぎてしまうほど小さな店である。そこには「向こう横町のタバコ屋の可愛い看板娘」であったと思われるおばあさんが一人座っている。タバコの他にはほんの少しの駄菓子が置いてあるだけである。たくさん置けないほど狭いのである。そこのおばあさんもまた身体が小さい人である。

その店でタバコを買うのを楽しみにしている人がたくさんいることと思う。というのは、私自身が買う時にいつも暖かい気持ちになるからである。例えばショートピースは当時一個120円（現在は220円）なので、お釣りの小銭を貯めたくないで5個まとめて買う。すると、「たくさんまとめて買って来て、ありがとね」と言ってくれる。そして紙袋に入れようとするので、「どうせ袋は捨てるので必要ないです」と言うと、「そうね、どうもありがとね」とくる。店を出る時もまた「どうもありがとね」と言ってくれる。

その「ありがとね」のイントネーションは活字に

しがたいが、何とも言えぬいい響きである。このような何気ない会話（それも日本語ならでの）を日常大事にしたいものである。そしてこの心暖まる感性を大切にしたいと思うのである。

とくに東京のような都会にあっては、ぎすぎすした会話のない世界が普遍化しているようであり、自動販売機が喜ばれていると聞く。まことに憂うべき物質偏重主義がまかり通っているのが現実といえる。今、生涯学習社会が叫ばれているのはこのような「ありがとね」の良き感性のやりとりが要求されているに他ならないともいえる。

「子供サミット」という子供の意見を聞く機会があったが、その会話の中に、駄菓子屋さんのような会話ができるお店があるといいのに、という希望があった。このような次代を担う子供たちの姿に日本の将来の明るさを感じた次第である。悪さをする子供や若者がいるのは大人社会でも同じことで、豊かな感性を育てあげる努力を重ねたいものである。未来を託せる優秀な若者はたくさん存在しているのである。

(財) 北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

事務局からのお知らせ

●新入会員紹介（敬称略）

次の方々が新たに賛助会員になりました。
今後ともよろしく願いいたします。

個人会員

- ・富谷 功（札幌市） ・笹原 和 広（雄武町）
- ・菊池 千秋（雄武町） ・上野 雅 樹（札幌市）
- ・湯浅 純 人（雄武町） ・高橋 信 一（雄武町）
- ・中村 信 之（雄武町） ・金澤 光 一（雄武町）
- ・櫛山 優 子（雄武町）

●会費納入のお願い

今年度も会員の皆様のご支援・ご協力により各事業を実施しております。

つきましては、今年度の会費が未納の方は早めの納入についてよろしく願いいたします。



編集後記

- ・地球温暖化による影響か、今年の夏は真夏日を含め暑い日が9月下旬まで続きました。でもやはり北海道。朝晩は冷え込むようになり、涼しい日々を久方ぶりに取り戻してきた今日この頃です。
- ・「あつい」といえば、今年の夏はスポーツの祭典オリンピックがロンドンで開催されました。各国選手の素晴らしい戦いに連日深夜、そして早朝とテレビに釘付けの「熱い」「暑い」毎日でした。
- ・ロンドンでは引き続きパラリンピックが開催されました。「走る・跳ぶ・投げる」などの一所懸命な姿には、またも新たな感動を呼び起こしたものでした。

- ・今年度も半年が経過しました。お陰様で各種事業も予定どおり進んでおり、10月からは「大学放送講座」が始まります。道民カレッジ事務局では大学放送講座テキストを発売中ですのでお買い求めください。
- ・事務局では会員の皆様から会報「ほっかいどう生涯学習」の記事を募集しています。最近感じたこと、主張したいことなど400字以内で自由に投稿してみませんか。
- ・会報に連載している宇田川会長の随想は今号で19回目となりますが、16回までの随想を一冊にした小冊子を作成してみました。数に限りがありますがご希望の方は事務局までご連絡を。